

ドレスデン歴史的地区の再建プロジェクトにおける都市表象のコンフリクト 飯田 皆実 (文学研究科・ドイツ文学)

研究調査の目的と背景

1990年の東西ドイツ統一によって、新しくドイツ連邦共和国に加わった旧東側の5州は、否応なしにグローバル化の波に飲み込まれることになった。 Kommunismusという理想が消え去ったいま、各々の地域が経済的側面で西側の資本に圧倒されたのは自明のことだが、それは芸術・文化的側面にも及んだ。しかしながら諸都市はげんざい、地域に密着した文化・芸術振興によって、各々独自の展開をみせている。なかでもザクセン州の都市、ライプツィヒとドレスデンは、異なる方向性ながら、積極的に文化政策をうちだしている中心的都市といえるだろう。

本研究は、ドレスデンの旧市街地区、とりわけ聖母教会とその周辺のノイマルクト広場の再建事業に関わる論争をとりあげることによって、地方都市の文化政策と文化的アイデンティティをめぐる葛藤や軋轢の諸相を読みとこうとする試みである。それは先に述べたように、歴史的地区の保存か再開発かをめぐるあちこちの対立ではなく、グローバル化のなかでローカルな中心都市が、その固有性をいかに主張していくかという問題にかかわっている。ドレスデンの場合それは、旧西ドイツ的な商業的・観光的文化の浸透にたいする反感、あるいはベルリンを中心とした文化的均質化に対するザクセン愛郷主義的な心情、さらには、ドレスデンという都市そのものに深く刻み込まれた宮廷・貴族文化に対する、市民的自尊心などが複雑に重なり、かなり錯綜した葛藤を形成している。本研究では、こうした対立の内実を、文学テキストをはじめとする各種の言説データ、および写真や絵画、絵はがき等の画像データを活用して、都市表象の変遷と再生産という観点から検討した。

調査概要

- 期間： 平成21年9月2日から10月3日
- 調査地： ドイツ ザクセン州 ドレスデン
- 調査内容：

ドレスデンは、16世紀に遷都して以降ザクセン侯国の首都として栄えた、いわゆる「宮廷都市」である。特に、17世紀末に即位したアウグストI世(強王)(在位1694-1733)とその息子アウグストII世(在位1733-1763)が果たした役割は大きい。彼らは、ポーランド国王をも兼ねて政治的手腕をふるったと同時に、ドレスデンの街区をイタリアに倣ってバ

ロック様式へ造りかえるために、莫大な財を投じた。その文化インフラの整備のために、芸術家や職人が各地から招かれただけでなく、多くの貴重な造形美術品が買い集められ、またオペラを中心とする音楽家の活動も支援された。

なかでも、ドレスデン旧市街の中心地に 1743 年完成した、プロテスタントの聖母教会は、その特徴的な釣り鐘式ドームでもって、この都市のイメージを決定づけることになった。それには、ドレスデンの都市景観を描いたベルナルド・ベロット (カナレット) (1697-1768) の絵画が関係していることは明らかであろう。しかし、1945 年 2 月の英米軍による爆撃により、聖母教会を含む旧市街地区は壊滅的打撃を受けた。その後、ドレスデンは、東ドイツの中心的都市として蘇るのだが、他の歴史的建造物が再建または撤去される一方、聖母教会は瓦礫の山のまま放置された。東西ドイツ統一後によりやく着手された再建工事が完了し、市民に披露されたのが 2005 年 10 月のことであった。そして、教会周辺部であるノイマルクト広場の本格的な再建は、その前後から始まった。

そもそも、なぜ聖母教会とノイマルクト広場は再建されなくてはならなかったのか。今回の調査ではまず、歴史的経緯を文献資料によって精査するとともに、広場をとりまく都市表象を時系列にそって収集・分析した。具体的には、ドレスデン市立博物館で開催されていた聖母教会再建に関する特別展示を訪ねた後、博物館所蔵の写真・ポストカードコレクションを調査した。また、ザクセン州立図書館において、ドレスデンの文化・芸術をテーマとした写真集や画集、ならびに東西ドイツ再統一前後から現在までの旅行ガイドを収集・比較し、その記述の変遷を分析した。

続いて、ノイマルクト広場再建計画に関して、ドレスデン市役所、およびドレスデン・ノイマルクト歴史協会 *Gesellschaft Historischer Neumarkt Dresden e.V.(GHND)*を訪ねて、いかなる方針でプロジェクトがすすめられてきたのか、そしてこれからの計画や問題点などを聞き取り調査した。また、地元新聞 *Dresdner Neueste Nachrichten* および *Sächsische Zeitung* の記事や住民に対するアンケート調査などの統計資料をできる限り収集しようと試みた。また、ノイマルクト広場周辺の復興に関する、文学作品や作家の言説にも注目した。

成果報告会では、以上の調査をふまえて、ノイマルクト広場をめぐるふたつのコンフリクト、(1)18 世紀の歴史的デザインとモダンなデザインの併置に関するコンフリクト、(2) 織物会館 *Gewandhaus* の復元をめぐる、ドレスデン市議会と歴史協会を中心としたコンフリクトの実態とその原因の分析を軸に報告を行う予定である。